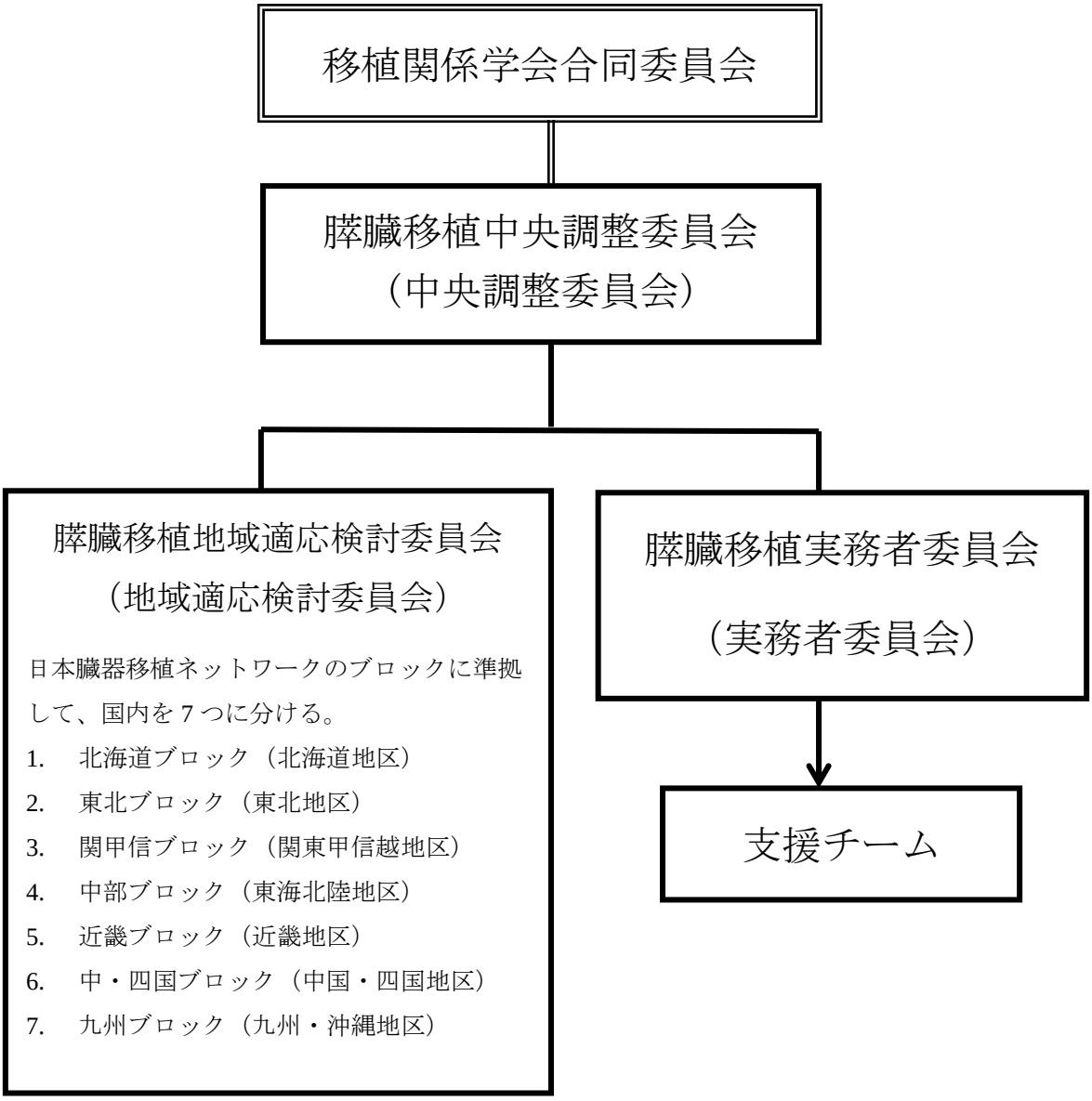
Ｖ．実施施設認定のための登録と実施の組織体系

1．委員会の設置と目的

1999 年 2 月移植関係学会合同委員会・膵臓移植特別委員会（座長：金澤康徳）は、脳死者からの膵臓（および膵腎同時）移植を推進するため、膵臓移植全体を統括する移植関係学会の委託代表から構成される協議機関、膵臓移植中央調整委員会を設置した。

膵臓移植中央調整委員会は、レシピエント登録評価をおこなう内科医で構成される「膵臓移植地域適応検討委員会」と実際の膵臓移植術を支援するおもに外科医からなる「膵臓移植実務者委員会」を組織した。組織図を以下に示す。なお、委員の選出にあたっては関連学術団体に依頼した。

図 1　膵臓移植に関する組織体系



2. 構成・役割および運営

＜膵臓移植中央調整委員会＞

委員会の役割：①関係学術団体の統一見解の提示
各種基準の原案の策定・公表
②膵臓移植遂行のための下部委員会等との調整
地域適応判定委員の委嘱、活動の調整
移植実施施設の選考、活動の調整
実務者委員会とそれによって構成される移植医集団の調整
③膵臓移植前後過程の評価
④膵臓移植に関する書類の保存と管理

委員会の構成：選出母体と選出人員（資料 A）
当面膵臓移植に関連する学術団体を以下の通りとし、各団体に人選を依頼する。
日本糖尿病学会より 3 名、日本腎臓学会より 2 名
日本移植学会より 1 名、日本膵・膵島移植研究会より 3 名

委員長の選出：選出された委員の互選により、委員長を決定し、全体の業務を総括する。
委員会の事務遂行上必要があれば、委員長が事務担当の委員・連絡員等を委嘱し事務局を構成する。

委員の任期：2 年

委員会の所在地：別途、選出された委員長が定める。

＜膵臓移植中央調整委員会に属する各種下部委員会＞

移植手術前後のきめ細かなフォローアップを円滑に遂行するため、膵臓移植中央調整委員会は以下の委員会等を組織し統括する。

（1）膵臓移植地域適応検討委員会（以下、地域適応検討委員会）

委員会の役割：担当ブロック内の主治医から提出されたレシピエント候補者の適応検討と判定結果の報告。移植実施施設ならびに日本臓器移植ネットワークへの連絡および登録手順については、別途定める。

地域区分：日本臓器移植ネットワークのブロックに準拠して、国内を 7 つに分ける。

委員の選出：中央調整委員会はブロックごとに日本糖尿病学会より 2 名、日本腎臓学会より 2 名の人選を両学会に依頼する。（資料 B）
各学会から選出された委員は膵臓移植中央調整委員会が任命する。

委員の任期：2 年

オブザーバー：地域適応検討委員会は、必要に応じ主治医、移植医および判定に必要な専門医等の委員会への参加を求め、意見を聴取することが出来る。

委員会の招集：膵臓移植中央調整委員会から地域適応委員会へ膵臓移植適応判定申請書の発送後、原則的には 1 ヶ月以内に地域適応検討委員会が召集される。

判定・結果報告：委員は、判定意見書とともに判定結果を、主治医、膵臓移植中央調整委員会に報告する。

※膵臓移植地域適応検討委員会について

膵臓移植地域適応検討委員会は膵臓移植又は膵臓腎臓同時移植を希望して患者主治医より膵臓移植中央調整委員会に申請された書類を移植が行われる地域の適応検討委員会に委託し当該患者の膵臓移植の適応及び耐術性が検討された。本組織は日本糖尿病学会の各地方会支部に一致した地域（7 支部）よりなる 2 名の委員、また日本腎臓学会より同じ地域から 2 名の委員を選出して頂き通常この 4 名（近畿ブロックではこれらの委員のほか多くの専門家の参加を得て）で申請書が検討されている。現在（2019 年 9 月 30 日）まで、のべ 900 件の申請があり書類不備の 6 件を除き 894 件が地域の膵臓移植適応検討委員会に送付され、797 件（再申請を含む総申請数の 88.6%）が適応ありとされ、書類は当該膵臓移植施設に送られた。移植施設での検討で移植についての条件が揃っているとして日本臓器移植ネットワークへ登録が完了した例が 730 件（再申請を含む総申請数の 81.1%）である。

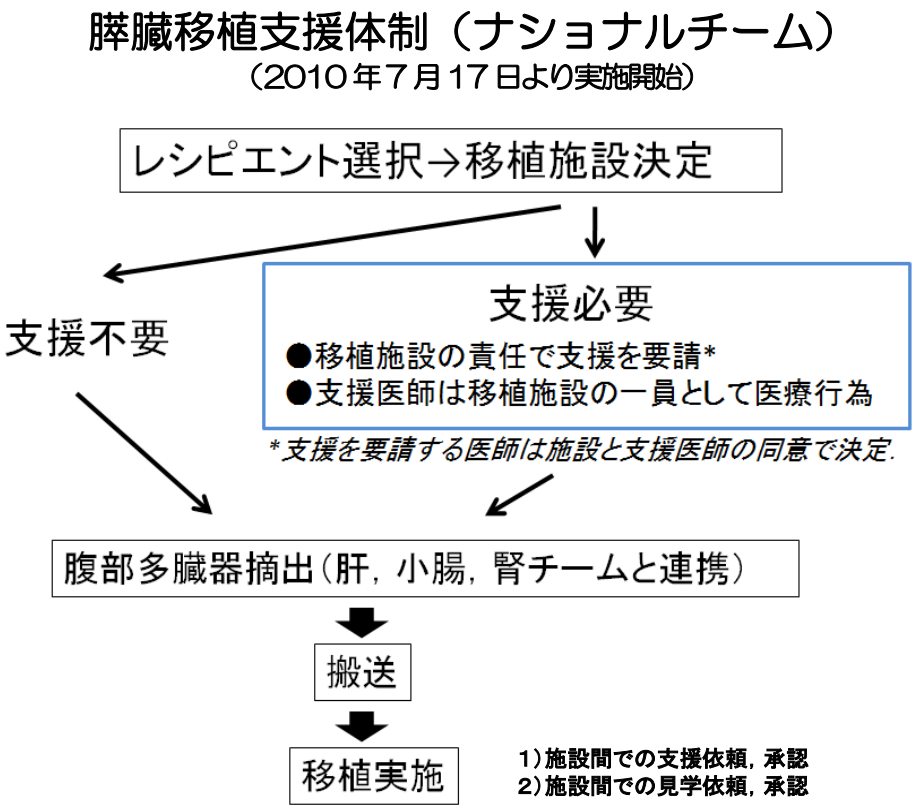
各地域での検討は多くの場合持ち回りで行われ、各地域の代表委員がまとめて結果を 1 ヶ月以内に中央調整委員会に報告することになっている（2019 年現在）。地域の委員会であり、検討会を開催することは全国的な委員会を開催するより容易であるとの考えであったが，日本糖尿病学会所属の委員と、日本腎臓学会所属の委員のスケジュールが一致し難いことがわかり、多くの場合は持ち回りの意見交換であった。また判定に更なるデータが必要である場合は中央調整委員会事務局が仲介し申請者と連絡を取るため最終的判定までにやや時間がかかることがある。このような状況も踏まえ、直近 3 年以内の申請では、判定に必要とした期間は平均 11 週である。判定の際の問題点は血清 C ペプチド値から内因性のインスリン分泌が認められるのではないかと思われる症例の再検討や、合併症のため膵臓移植手術の際の耐術性の有無に疑問が持たれた症例など、判定に時間を要した申請を除けば 6-7 週程度で判定は終了している。

（2）膵臓移植実務者委員会（以下、実務者委員会）

委員会の目的と役割：多施設間の円滑な協力体制（いわゆる支援チームと共通の膵臓移植マニュアル）を確立・維持しつつ、膵臓移植医療の健全な発展に寄与することであり、また、心・肺・肝等の他の臓器移植チームとの連携を密にすることも念頭におき活動する。脳死体ドナーからの膵臓（腎臓を含む）の摘出とレシピエントの膵臓移植術を支援する。

委員の選出と構成：膵臓移植実施施設として「適格」と認定された施設における実務担当の外科医、海外で膵臓移植の臨床の経験ある外科医、膵臓移植中央調整委員会委員長から構成される。

委員会の運営：膵臓移植実務者委員会の委員にて膵臓移植支援体制（ナショナルチーム）を構築し、膵臓移植の際に実施施設より要望を受けた場合、支援を担う。実務者委員は、常時、各膵臓移植認定施設より 2 名選出し、構成される。
※支援体制の流れについては、下記図を参照



委 員 長 の 選 出 ：膵臓移植中央調整委員会が幹事の中から委員長を推薦する。

実務者委員会の開催：実務者委員会委員長と中央調整委員会委員長は、年 2 回実務者委員会を開催し、新規膵臓移植症例および経過観察中の問題症例の検討会を行う。必要に応じて膵臓移植の臨床上の問題を議題として討議する。時期は、日本膵・膵島移植研究会の年次集会と日本移植学会総会にあわせて開催する。

附則

1. 本内規は、1999 年　4 月より発効する。委員の多数決により改定することが出来る。
2. 第 1 期の中央調整委員会は、移植関係学会合同委員会により召集された膵臓移植特別委員会（座長：金澤委員）が当面移行して活動を開始した。

以下に、各膵臓移植認定施設ならびに実務者委員（2019 年 10 月 1 日時点）を示す。

※実務者委員については、各施設の状況により適宜変更されることを申し添える。

膵臓移植実施認定施設：18 施設

北海道大学大学院医学研究科	渡辺　正明 腰塚　靖之	藤田医科大学医学部 移植・再生医学	剣持　　敬 伊藤　泰平
東北大学医学部 移植・再建・内視鏡外科	宮城　重人 戸子台和哲	京都府立医科大学 移植・内分泌外科学	牛込　秀隆 昇　修治
福島県立医科大学医学部 臓器再生外科	見城　明 岡田　良	京都大学医学部附属病院 臓器移植医療部	穴澤　貴行 岡島　英明
獨協医科大学 第二外科	窪田　敬一 加藤　正人	大阪大学大学院医学系研究科	江口　英利 富丸　慶人
東京女子医科大学 第三外科	中島　一朗 小山　一郎	神戸大学肝胆膵外科	外山　博近 寺井　祥雄
東京医科大学 八王子医療センター	河地　茂行 岩本　　整	広島大学医学部・歯学部附属病院 第二外科	大段　秀樹 田原　裕之
埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科	別宮　好文 牧　　章	香川大学医学部 消化器外科	岡野　圭一 大島　稔
新潟大学医歯学総合病院 消化器一般外科	若井　俊文 小林　　隆	九州大学医学部 第一外科	加来　啓三 岡部　安博
名古屋第二赤十字病院 移植外科	鳴海　俊治 平光　高久	長崎大学移植・消化器外科	足立　智彦 大野慎一郎

その他の施設

旭川医科大学 外科学消化器病態外科	古川　博之	京都大学再生医科学研究所	角　昭一郎
愛知医科大学医学部 外科学講座	小林　孝彰	大阪府立急性期・総合医療センター 消化器外科	友國　　晃
国立病院機構米子医療センター 外科	杉谷　　篤	千里中央駅前クリニック	石橋　道男

移植関係学会合同委員会　膵臓移植中央調整委員会
委員名簿

（2022 年 10 月時点）

日本膵・膵島移植学会

後藤　満一　　大阪府立病院機構　大阪急性期・総合医療センター

剣持　　敬　　藤田医科大学　医学部　移植・再生医学

伊藤　壽記　　大阪府保健医療財団　大阪がん循環器病予防センター

日本移植学会

寺岡　　慧　　東京女子医科大学

日本腎臓学会

石橋　道男　　千里中央駅前クリニック

酒井　　謙　　東邦大学医療センター　大森病院腎センター

日本糖尿病学会

◎粟田　卓也　　国立国際医療研究センター　膵島移植センター

稲垣　暢也　　公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院

脇　　嘉代　　東京大学大学院　医学系研究科　医療情報学分野

事務局

脇　　嘉代*　　東京大学大学院　医学系研究科　医療情報学分野

堀　　裕絵　　日本糖尿病学会　事務局

◎委員長
＊ 事務局兼任

膵臓移植地域適応検討委員会　委員名簿

［任期： 2022 年 6 月 1 日～2024 年 5 月 31 日］

(**ブロック代表者)

北海道ブロック

安孫子 亜津子 **	旭川赤十字病院 糖尿病･内分泌内科
渥美　達也	北海道大学大学院医学研究院 免疫代謝内科学
西尾　妙織	北海道大学 第二内科
吉田　英昭	JR 札幌病院 腎臓内科

東北ブロック

片桐　秀樹 **	東北大学医学部附属病院 糖尿病代謝科
島袋　充生	福島県立医科大学 糖尿病･内分泌･代謝内科学講座
宮崎　真理子	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科
中屋　来哉	岩手県立中央病院　腎臓・リウマチ科

関東甲信越ブロック

島田　　朗 **	埼玉医科大学 内分泌･糖尿病内科
西村　理明	東京慈恵会医科大学 糖尿病･代謝･内分泌内科
成田　一衛	新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎･膠原病内科
酒井　　謙	東邦大学医療センター大森病院 腎臓学教室

中部ブロック

鈴木　敦詞 **	藤田医科大学医学部 内分泌･代謝内科学
恒川　　新	愛知医科大学医学部 内科学講座 糖尿病内科
坪井　直毅	藤田医科大学医学部 腎臓内科
丸山　彰一	名古屋大学医学部附属病院 腎臓内科

近畿ブロック

今川　彰久 **	大阪医科薬科大学 内科学 1 科
山﨑　真裕	京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌･膠原病内科
倉賀野　隆裕	兵庫医科大学病院 腎・透析科
猪阪　善隆	大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学

中国・四国ブロック

谷澤　幸生 **	国立大学法人山口大学
松久　宗英	徳島大学 先端酵素学研究所糖尿病臨床・研究開発センター
和田　淳	岡山大学大学院医薬学総合研究科 腎･免疫･内分泌代謝内科学
柏原　直樹	川崎医科大学 腎臓･高血圧内科

九州ブロック

安西　慶三**	佐賀大学医学部内科学 肝臓・糖尿病・内分泌内科
小林　邦久	福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科
中野　敏昭	九州大学院 腎疾患治療部
豊田　麻理子	熊本赤十字病院 腎臓内科